

平成25年1月6日

No.103

## < 目的 >

私達の仕事の目的は何か、「高林会計にお頼いしてよかった」と言ってもらえることだと思います。お客様に安心して頂く、喜んで頂く会計を通じて会社の方針を決定し、利益を出し、成長発展して頂く、税務を通じて社会の信頼を得て頂く。「お頼いしてよかった」と言ってもらい、多くの「よかった」の声を頂けるようにと思っています。その為には、どんな行動をすればよいか、全員で考え行動する一年に考え、努力します。厳しいけど、目的があり、やりがいの持てる職場づくり、お客様の立場で考え、行動する、そして成果も得ることのできる職場となることを目指します。「イキイキ、ワクワク、元気、笑顔」

会計に関して目的は、「貸借対照表をよ（す）ること」、貸借対照表をよ（す）る為の手段として明細書として損益計算書とキャッシュフロー計算書があると私は考えています。貸借対照表をよ（す）ことは、一人当たり自己資本額を高めること（社員一人500万円が、一人当たりの平均年間給与相額）、自己資本比率を高めること（40%以上）、当座比率を高めること（100%以上）、等です。よ（す）る為には損益計算書とキャッシュフロー計算書を利用する。損益構造とキャッシュフロー構造を明確にし、両方ともプラスにするよう考え行動する。利益を出し、お金を残すことです。多くの経営者は、損益計算書で利益が出たら、利益が出ていると考えます。正確には、キャッシュフロー計算書でお金が残り利益が出たこととなります。会計事務所の説明も損益計算書で終わってしまっています。「勘定合って足りず」わからず続いています。貸借対照表を目的に、損益計算書とキャッシュフロー計算書両方ともプラスにする。経営者は、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の構造を知る必要があります。

高林 幸裕